

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 2 区分

【発行日】平成24年12月20日 (2012.12.20)

【公開番号】特開2011-167702(P2011-167702A)

【公開日】平成23年9月1日 (2011.9.1)

【年通号数】公開・登録公報2011-035

【出願番号】特願2010-31284(P2010-31284)

【国際特許分類】

**B 2 3 K 26/38 (2006.01)**

**B 2 3 K 26/20 (2006.01)**

**B 2 3 K 26/16 (2006.01)**

**B 2 3 K 26/10 (2006.01)**

**B 2 3 K 26/08 (2006.01)**

【F I】

B 2 3 K 26/38 3 2 0 B

B 2 3 K 26/20 3 1 0 J

B 2 3 K 26/16

B 2 3 K 26/10

B 2 3 K 26/08 D

【手続補正書】

【提出日】平成24年11月6日 (2012.11.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 1】

ここで、図 5 に示すように、加工ヘッド 1 8 は、保持部材 1 6 の回転中心 O から延在する線、すなわち、保持部材 1 6 の半径（仮想線 M 1）に対し、回転方向上流側にオフセットされて該保持部材 1 6 に対向する。すなわち、レーザ光 L の仮想的な軸線 M 2 は、仮想線 M 1 と角度  $\theta$  をなす。以下においては、便宜上、この角度  $\theta$  を入射角と指称する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 9 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 9 5】

この場合、吐出ノズル 1 2 8 から圧縮エア等が吐出されるとともに、吸引ノズル 1 3 0 を介しての吸引が行われている。圧縮エア等が吸引ノズル 1 3 0 に指向して流通しているので、空気膜は、圧縮エア等に搬送されて吸引ノズル 1 3 0 に向かう。このことから諒解されるように、圧縮エア等は、空気膜を吸引ノズル 1 3 0 に向かって搬送する搬送媒体として機能し、これにより、空気膜が効率よく除去される。